【180】

氏名	辻　和宏
授与した学位	博　士
専攻分野の名称	医　学
学位授与番号	博乙第３０７２号
学位授与の日付	平成８年１２月３１日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	左右短絡性心疾患の手術前および短絡閉鎖後における肺静脈血流動態に関する研究 －術中細径化経食道ドプラ心エコー法による検討－
論文審査委員	教授　佐野　俊二　教授　大江　透　教授　菅　弘之

学位論文内容の要旨

左右短絡性心疾患症例33患児を対象として，術中細径化経食道ドプラ心エコー法を施行し，術前および短絡閉鎖後の肺静脈血流動態について検討した。右室容量負荷群（Ⅰ群），左室容量負荷群（Ⅱ群）ともに総肺静脈血流量（IS＋ID－IA）は，術前に比較し短絡閉鎖後有意に減少した。また，両群ともに短絡閉鎖による肺静脈血流速波形（PVF）の変化は心室収縮期波（S波）に最も反映されていた。さらに，術前Qp／QsはⅠ群がⅡ群に比較して有意に高値であったにもかかわらず，PVF波形には両群間に有意差は認められなかった。これはⅠ群では心房間短絡による心房全体としてのreservoir機能の増大によりS波成分の影響が緩衝されたためと考えられた。細径化探触子による経食道ドプラ心エコー法は，左右短絡性心疾患患児の術中非観血的診断法として十分応用可能であり，術前の形態学的診断，術中モニター，手術効果の術中判定等において有用性の高い検査法である。

論文審査結果の要旨

本研究は術中外径6.8mm細径化経食道探触子を用い，ドプラ心エコー法を施行。術前および短絡閉鎖後の肺静脈血流動態について検討したものである。本法によると，総肺静脈血流量は短絡閉鎖後有意に減少し，また術前後における肺静脈血流速波形の変化は心室収縮期波（Ｓ波）に最も反映された。

本法は，成人例においては術前後の心機能評価に多用されているが，乳幼児例での報告は少なく，更に術前の形態学的診断，術中モニター，手術効果の術中判定等においても有用性の高い検査法であることを証明した貴重な論文である。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。